夕刊 臺灣日日新報 (昭和十七年十一月十九日 (木曜日) 第一万五千三百四十一號 A (一)
臺二種 (明治卅一年五月九日第三種郵便物認可)
十一月十八日 夕刊 臺灣日日新報社 臺北市榮町二丁目一番地 電話二三一〇番 振替臺北一〇〇番

強力・日本の軍事力
一刻も猶豫ならず
グルー又米國民に警告

【リスボン十七日發同盟】前駐日米大使グルー氏は十七日デ・モインズ (アイオワ州) 來着、同地日米大使グルー氏は十七日デ・モインズ市で催擧された太陽協會に出席、日米關係の將來につき次の如き演説を行つた

日本は明治維新時代に勇ちであつた、今日で世界的勢力關係となつた、日本は世界的に特殊的な國によつてのみ統れ出るであらう、人間として見た日本國民は近代世界において最高の資格に適した國民的能力を有してゐる、われくは日本を敵に回したくない、われくは日本の過去を通じた日本に對する友情を有してゐる、日本は米國民を一歩も後退したことをへればならない、國際的に見た所謂眞珠灣は日本は極めて短時日に於て世界の最大海軍國となつた、今日では世界的勢力關係となつた、日本は世界的に特殊的な國によつてのみ統れ出るであらう

錬成の成果發揮し
臺灣代表元氣に歸る
郷土の名譽擔ひ終始敢闘

明治神宮國民錬成大會に參加代表として出場後の感想から來る感激を語り合ふ座談會を開催せんとして各地一般競技と野球二代表選手は昨十八日午後二時から臺北驛樓上の會議室に於いて次の如く語つた

自信はあつた
射撃に第一位鄕軍臺北支部選手

射撃競技に參加したのはトンネルの中、こつち向きの的が次々で面白い仕事がちがふのですが、とにかく良く的の前には慣れてゐましたし、自信はありました

貴重な體驗を得た
戰場運動監督桑原氏談

團長として參加した二日の光榮を語り

來年はもつと頑張る
女子弓道代表兩孃語る

で体操にと練をはこばせながら父を語る

神前に豐穰を感謝
臺北各神社に神饌米獻納

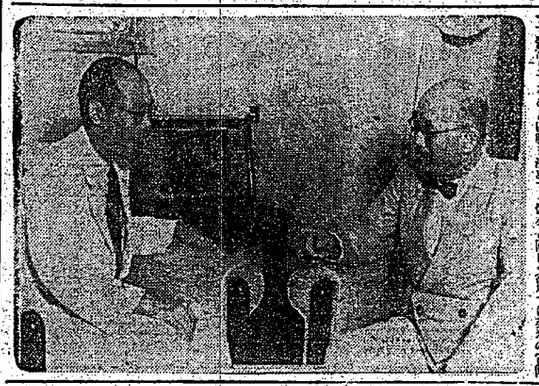
臺北地下鐵工事は、明治神宮鎭座四十年の今を偲ばしめるため既報の如く臺北神社、臺灣神社、臺灣總督府國語學校、臺灣神社に獻納した神饌米を奉戴する外地下各鐵道に於いて出發に際しての感激を語つてゐる

南支皇軍慰問團
佐賀縣代表者ら寄臺

大東亞戰一周年・佛印の回顧（上）
軍官民一致の體當り
內山公使、佐藤情報部長對談

鍬の戰士 海南開拓民訓練所

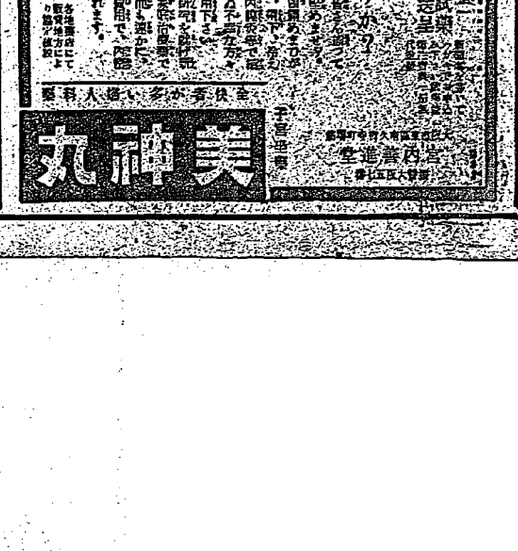
臺灣代表歸る
官民（上）歸着した代表一行（下）鄕軍射撃に優勝した臺北支部代表



現業長、主任會議終る
局職大家族主義顯現へ邁進期す

二國志
（909）
（赤壁の卷）
吉川英治作
矢野橋村畫

づうにサール



臺灣日日新報　昭和十七年十一月十九日　(水)　第一万五千三百四十一號　(一)

臺灣新民報

(第二附)　(明治卅一年五月九日第三種郵便物認可)　昭和十七年十一月十九日　日本各地共六頁

第二次ソロモン海戰

敵艦十二隻を擊沈

敵增援艦隊の大部を潰滅

【東京發同盟】大本營發表

(十八日午後三時三十分)　十二日以來戰闘續行中の帝國海軍部隊は十三日夜間ガダルカナル島敵航空基地を猛撃、飛行場及びその施設に大損害を與へ、更に翌十四日敵機の猛烈なる反撃を排除しつつ味方輸送船團を護送中、同日夜間同島の西北方に於いて戰艦二隻、大型巡洋艦四隻以上を基幹とする敵增援艦隊に遭遇、これと激戰の結果、この補助部隊の大部を潰滅し戰艦二隻に重大なる損傷を與へ、これを南方に敗走せしめたり、現在までに判明せる十二日以來十四日までの綜合戰果並びにわが方の損害左の如し

一、艦船撃沈　巡洋艦八隻(内新型三隻、内五隻確沈)、驅逐艦四隻乃至五隻、輸送船一隻　**大破**　巡洋艦三隻、驅逐艦三隻乃至四隻、輸送船三隻

二、飛行機撃墜　六十三機、撃破　十数機

三、わが方の損害　戰艦一隻沈没、同一隻大破、巡洋艦一隻沈没、飛行機三十二機自爆、九機未歸還

【註】十二日以來十四日までの海戰を第三次ソロモン海戰と呼稱す

撃沈破艦艇船一二二

敵機八五〇以上を屠る

ソロモン中心の綜合戰果

【東京發同盟】第一次ソロモン海戰より第三次ソロモン海戰に至る迄の百日間、ソロモン群島を中心として南太平洋水域に於いて撃沈破せる敵艦船並びに撃墜破せる敵飛行機の綜合戰果は左の如し

敵側

	撃沈	大破	中破	大破又は中破	計
戰艦	一	三	一	五	八
空母	四	二	〇	〇	六
巡洋艦	二七	五	〇	三	三二
驅逐艦	二〇	七	〇	三	三〇
潜水艦	九	一	〇	一	一一
掃海艇	一	〇	〇	〇	一
艦型未詳輸送船	一七	六	〇	三	二六
合計	七九	二三	〇	三	一一五
飛行機撃墜破	八五〇機以上				

我方

	沈没	大破	中破	小破	損傷	計
戰艦	一	〇	一	〇	〇	二
空母	〇	〇	〇	〇	三	三
巡洋艦	三	〇	一	一	七	一二
驅逐艦	六	一	〇	二	九	一八
潜水艦	一	〇	〇	〇	二	三
輸送船	五	一	〇	〇	一	七
合計	一六	三	二	三	二	四〇
飛行機自爆及び未歸還	二〇六機				大破二一機	

第一次ソロモン海戰(八月七日—八日)

艦船撃沈　巡洋艦十三隻　驅逐艦九隻　潜水艦三隻　輸送船十隻

同　大破　巡洋艦一隻　驅逐艦三隻　輸送船一隻

飛行機撃墜五十八機

我方の損害　巡洋艦一隻輕微な損傷　飛行機自爆二十一機

第二次ソロモン海戰(八月二十四日)

艦船大破　大型空母一隻　同中破　中型空母一隻　戰艦一隻

我方損害　小型空母一隻大破　驅逐艦一隻沈没

ソロモン群島方面作戰(八月二十四日—十一月四日)

艦船撃沈　空母一隻　巡洋艦三隻　驅逐艦五隻　潜水艦六隻　輸送船六隻　掃海艇一隻

同　大破　戰艦一隻　空母一隻　巡洋艦一隻　潜水艦二隻　輸送船二隻　掃海艇一隻

同　中破　空母一隻

飛行機撃墜四百三機　撃破九十七機　大損害十九機

我方損害　沈没巡洋艦二隻　驅逐艦一隻　潜水艦一隻　輸送船五隻　大破驅逐艦一隻

輸送船三隻　中破巡洋艦一隻　驅逐艦二隻　潜水艦二隻　輸送船二隻　飛行機自爆二十六機　大破二十一機　未機還七十八機

南太平洋海戰(十月廿六日)

艦船撃沈　戰艦一隻　空母三隻　巡洋艦三隻　驅逐艦三隻

飛行機撃墜八十機以上　其他空母沈没に伴ふ喪失等合計二百機以上

我方損害　空母二隻　巡洋艦一隻小破　飛行機未歸還四十数機

第三次ソロモン海戰(十月廿七日—廿八日)

艦船撃沈　巡洋艦八隻又(内新型三隻)　驅逐艦四隻乃至五隻　輸送船一隻

同　大破　巡洋艦三隻又　驅逐艦三隻乃至四隻　輸送船三隻

同　中破　戰艦二隻

飛行機撃墜六十三機　撃破十数機

我方損害　沈没　戰艦一隻　巡洋艦一隻　驅逐艦三隻　輸送船一隻　飛行機自爆三十二機　未歸還九機

日米主力艦初めて交戰

陸海空立體の第三次ソロモン海戰

【東京發同盟】統帥部は米國海軍が多年に亘つて誇りとする新戰艦の撃沈並びにこの一隻に次ぐ重大なる敵國艦艇が戰闘の場に登場を試みたる事實なきに拘らず、大艦巨砲を以つて鳴るソロモン海戰に於いて、ガダルカナル島敵飛行場奪回作戰の爲に進出し來つたのは八月七日第一次ソロモン海戰以來の大戰であつた、わが陸海軍航空兵力及び艦艇は協力よく敵艦船を殲滅し、敵航空兵力に對しては徹底的打撃を與へ、敵の反撃を封じ、ガダルカナル島飛行場の使用を不能ならしめ、以つて陸軍部隊の同島奪回作戰を容易ならしめたり、

爆撃　まづ五日—九日以上にわたつて、敵は必死に飛行場を修復せんとし、敵は必死に飛行場を修復せんとし、これに對し陸海軍航空部隊は執拗なる爆撃を加へ、敵の修復を妨害し、かくてこの間隙に乘じ、わが陸軍部隊は逐次上陸を開始、ガダルカナル島飛行場の東南方に迫り、我國防第一線を同島に推進するに至つた、

上陸　敵はこの間ガダルカナル島飛行場の奪回を期して、ソロモン諸島方面に增援部隊を急派し來つたが、わが陸海軍航空部隊は敵艦船に對し、十月廿六日—廿七日の兩日に亘る第三次ソロモン海戰の三日間であつた、敵は又もや多大の損害を受けて退却を餘儀なくされた、火蓋は愈々十二日に切られた、皇軍と米英軍との決戰は陸海空軍を擧げて陸、海軍航空兵力の撃滅戰となつたのであり、この間わが陸上兵力の動靜せられざること殆ど皆無であつたが、敵は第三次ソロモン海戰に於ける大損害を契機として、ガダルカナル島飛行場奪回作戰を放棄し、同島より撤退を開始したものと判斷せられる、

撤退　敵は第三次ソロモン海戰に於ける大損害を契機として、ガダルカナル島飛行場奪回作戰を放棄し、同島より撤退を開始したものと判斷せられる、

南溟　の戰局は重大化し、我陸海軍航空部隊は敵艦船に對し、十月廿六日—廿七日の兩日に亘る第三次ソロモン海戰に於いて、敵艦船に對し、徹底的打撃を與へ、敵の反撃を封じ、ガダルカナル島飛行場の使用を不能ならしめ、以つて陸軍部隊の同島奪回作戰を容易ならしめたり、

薄暮　の戰ひが敵艦船に對し、徹底的打撃を與へ、敵の反撃を封じ、ガダルカナル島飛行場の使用を不能ならしめ、以つて陸軍部隊の同島奪回作戰を容易ならしめたり、

第三次ソロモン海戰(十月廿七日—廿八日)

艦船撃沈　巡洋艦八隻又(内新型三隻)　驅逐艦四隻乃至五隻　輸送船一隻

同　大破　巡洋艦三隻又　驅逐艦三隻乃至四隻　輸送船三隻

同　中破　戰艦二隻

飛行機撃墜六十三機　撃破十数機

我方損害　沈没　戰艦一隻　巡洋艦一隻　驅逐艦三隻　輸送船一隻　飛行機自爆三十二機　未歸還九機

陸軍關係輝く行賞

大東亞戰第二回死歿者

支那事變第四十二回死歿者

【東京發同盟】陸軍省發表

大東亞戰爭並に支那事變に於ける戰死者竝に戰傷死者中、特に其の武勳顯著なるものに對し、本日左の通り賞詞を贈與せらる、

李守信上將以下に

勳章贈與の御沙汰

蒙古軍人の戰功を嘉せられ

千八百九十人餘の將兵に對し各部隊長から感狀が授與されたが、今回更に大東亞戰爭並に支那事變に於ける特に顯著なる武勳に對し、勳一等旭日大綬章一名、勳一等旭日重光章一名、勳一等瑞寶章一名

社說

チユニジア等奪戰と地中海　福軸軍の大活躍に期待

一

英佛同盟軍が北阿奥領にドイツとイタリアの軍隊と對峙してゐるチユニジアとアルジエリアとの境界線は、去る八日アメリカとの外交關係が、去る八日フランスの同盟國であつたドイツ及びイタリアの手によつて破られてしまつた。この瞬間から北阿奥領は、佛國の植民地ではなくなつたのである。英米連合軍人を敵とした敵地である。英米連合軍人を敵として戰はなければならない地域である。

二

一方北阿領土に於ける最大の敵國アメリカの參戰は、ヒトラー獨裁の今や最も恐れてゐるところである。ヒトラーは獨裁の今や最も恐れてゐるところである。ヒトラーは獨裁の今や最も恐れてゐるところである。ヒトラーは

大東亞戰爭一周年第一次運動

運動展開の「五項目」

翼壯協力、實施要綱決る

一周年の日の感激更に新た

戰爭生活確立へ

十二月 奉公班常會申合事項

あの日の感激を

南太平洋を壓する我が艦艇

―海軍省指定の海軍記念日の題目―

宣戰一周年

青年團を動員滯貨一掃

新竹州、實施事項を協議

車上に儼生不動

第二の西住戰車長 殊勳甲に輝く久野大尉

身に餘る光榮に感激

功二旭一の恩命拜し故酒井兵團長夫人語る

皇軍に協力武功特筆

勳章賜與の御沙汰 拜す李守信上將

船客手荷物を制限

目下開係者間で對策協議

皇軍の蒙疆作戰に協力

大の親日家・烏古延中將

尊き體驗銃後に發揮

臺灣從軍記念會 臺北州支部誕生

神德景仰講習會開催

全國青少年代表を集め

從軍記念會嘉義支部

きのふ・結成力强き新發足

今日の映畫

内地仕入代行業務一般
日本東亞必需品輸出組合員
紙製品 移動文房具 家庭用雜貨 防空用品
三友社
名古屋市東區泉町十七
電話東局④三七五番
振替名古屋三四五五番
御入御希望御見積御送付致します

表彰に輝く三節婦
今ぞ〝荊の道〟晴れてあり
嘉義が誇る軍國の妻

【嘉義特電】表彰に輝く嘉義の三節婦は、いずれも軍國の母として、また軍國の妻として、その模範的な生活ぶりが認められたもので、嘉義市からは三名を出し十六日前九時市役所で表彰式が行はれたが、その代表者は次の三名である。

○嘉義市北門町一丁目一番地　荒井君子さん（三四）
○嘉義市北門町六丁目一番地　小西治さん（三四）
○嘉義市北門町一丁目一番地　藤井キヨ子さん（三四）

病身の舅姑に仕へ
夫の遺した職場を守る

荒井君子さん　女の官吏として舅姑の世話をしながら勤務

荒井君子さんは大正九年三月、荒井清一氏と結婚、昭和十三年〇月〇日嘉義郵便局に就いてから、ずつと今まで女の官吏として舅姑の世話をしながら勤務、また良き妻として夫清一氏を助けて家庭を守つてきた。

清一氏は昭和十三年〇月〇日召集を受けて出征したが、その時舅は病床にあり、姑は病弱で、君子さんは何等躊躇することなく、舅姑の看護と家庭の守りを引受けて出征の夫を安心させた。

その後舅は病勢益々重く、昭和十三年〇月〇日から一歩も寝床から離れることが出来ず、君子さんは勤務の傍ら、舅の看護に全力を注いだ。

舅は君子さんの献身的な看護にも拘らず、昭和十四年〇月〇日遂に永眠したが、君子さんは舅の死後も姑の看護に全力を注ぎ、姑の病気が治つてからは、姑と共に清一氏の留守宅を守つてきた。

清一氏は昭和十五年〇月〇日召集解除となつて帰還したが、君子さんの献身的な看護と家庭を守つてきた努力に対し、清一氏は君子さんの労を犒ひ、感謝の意を表してゐる。

軍事扶助も斷り
子女の育英に刻苦勉勵

荒井君子さん　女の官吏として舅姑の世話をしながら勤務

荒井君子さんは大正九年三月、荒井清一氏と結婚、昭和十三年〇月〇日嘉義郵便局に就いてから、ずつと今まで女の官吏として舅姑の世話をしながら勤務、また良き妻として夫清一氏を助けて家庭を守つてきた。

清一氏は昭和十三年〇月〇日召集を受けて出征したが、その時舅は病床にあり、姑は病弱で、君子さんは何等躊躇することなく、舅姑の看護と家庭の守りを引受けて出征の夫を安心させた。

その後舅は病勢益々重く、昭和十三年〇月〇日から一歩も寝床から離れることが出来ず、君子さんは勤務の傍ら、舅の看護に全力を注いだ。

舅は君子さんの献身的な看護にも拘らず、昭和十四年〇月〇日遂に永眠したが、君子さんは舅の死後も姑の看護に全力を注ぎ、姑の病気が治つてからは、姑と共に清一氏の留守宅を守つてきた努力に対し、清一氏は君子さんの労を犒ひ、感謝の意を表してゐる。

戰地の夫勵まし
自ら家業を陣頭に指揮

藤井キヨ子さん　第〇回生の男子を挙げ

藤井氏は昭和〇年〇月〇日、第〇回生の男子を挙げ、育児の傍ら自ら家業を陣頭に指揮して、夫の留守を守つてゐる。

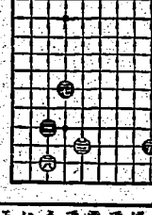
〝わが頸刎ねて行け〟
社衆戒めた故松浦先生
星霜三十年いま甦る師弟愛

山より高く海より深く、その師恩につながるこれは美しくも麗しい師弟愛の一話――話の主は嘉義市内圓通路（舊山口町）に住む山の如き師表故松浦先生（舊山口町）の初代の校長として赴任した、大嵙崁（現在の大溪）の地で、先生は蕃人の子弟教育に全力を傾倒されてゐたが、先生の教育方針は厳格そのものであつたので、蕃人の子弟の中には、先生を快く思はない者もあつたが、先生は断乎として信念を曲げず、その教育に邁進されてゐた。

ある日のこと、先生の教育方針に反感を抱いた蕃人の子弟が、先生の留守宅を襲ひ、先生の愛刀を奪ひ去つたが、先生は之を聞くや、直ちに蕃人の部落に乗込み、その愛刀を奪ひ返して来たといふ、勇ましい話も残されてゐる。

先生は明治四十五年三月四日、嘉義公会堂で開かれた第一回卒業生の送別会の席上、先生の教育方針に反感を抱いた蕃人の子弟が、先生の留守宅を襲ひ、先生の愛刀を奪ひ去つたが、先生は之を聞くや、直ちに蕃人の部落に乗込み、その愛刀を奪ひ返して来たといふ、勇ましい話も残されてゐる。

先生は明治四十五年三月四日、嘉義公会堂で開かれた第一回卒業生の送別会の席上、先生の教育方針に反感を抱いた蕃人の子弟が、先生の留守宅を襲ひ、先生の愛刀を奪ひ去つたが、先生は之を聞くや、直ちに蕃人の部落に乗込み、その愛刀を奪ひ返して来たといふ、勇ましい話も残されてゐる。



新嘗祭大祭
二十三日各地で

嘉南　【嘉義特電】嘉義郡では二十三日の新嘗祭に際し午前九時より嘉義神社、竹山郡社において、嘉義郡下各神社の祭典を執行する

嘉義　【嘉義特電】嘉義郡社では二十三日午前九時嘉義大祭を執行する

神宮大麻頒布式
きのふ高雄州會議室で

【高雄特電】高雄州の神宮大麻頒布式は十八日午前十時より州會議室において大麻部部長以下各課長出席の上行はれたが、部長の祝詞に続いて各参列者の下に献饌に移り、次いで頒布式に移つたが、部長から順次大麻を拝受した。

燦たり市葬二柱
故二吉陸一等兵と湯本軍屬

故二吉陸一等兵と湯本軍屬の市葬は十八日午前十時から嘉義市北門町の葬儀場において執行されたが、当日は午前九時頃から市内各町内会の代表者、在郷軍人分会員、青年団員、学生生徒等が続々と葬儀場に詰めかけ、また各官公署、会社、銀行、商店等は半旗を掲げて弔意を表した。

龍大な無許可賴母子
高雄署・届出を命に整理に大童

【高雄特電】高雄市内に於ける無許可賴母子は、昨年中に於ても相当多数に上つてゐたが、本年に入つてからは、一層、無許可賴母子の流行を見るに至つたので、高雄署では、之等無許可賴母子の一掃に乗出し、十月中旬から十一月中旬にかけて、一斉に之等賴母子の届出を命じ、之が整理に大童となつてゐる。

燦たり市葬二柱
故二吉陸一等兵と湯本軍屬

故二吉陸一等兵と湯本軍屬の市葬は十八日午前十時から嘉義市北門町の葬儀場において執行されたが、当日は午前九時頃から市内各町内会の代表者、在郷軍人分会員、青年団員、学生生徒等が続々と葬儀場に詰めかけ、また各官公署、会社、銀行、商店等は半旗を掲げて弔意を表した。

三姿の〝圏〟築く麗人
社會奉仕に活躍

管下警部巡閲
けふ全部終了

【嘉義特電】嘉義警察官練習所長兼嘉義警察官練習所長兼嘉義警察官練習所長兼